

和

大正七年六月十八日於吳軍艦千歲

第三百潜水艦汽艇衝突事件警内要員長

海軍大佐 原道太

大阪地方海員審判所

受命審判官 角岩操 一 致

拜読奉り拜願ノ事ヲ得るニ及ばざる事多し解任留置等事候
 あり小官今更福田大佐ノ後任トシテ潜水艦汽艇衝突
 事件者向委員長ヲ命じ同官ヲ引継グ事ナリ
 事件ノ因上ハ先般福田大佐宛テ通知ノ次第ニ有之
 千歳機密第五三號

1346

種之由多配、修於謝誌候中、方審判上必要
有之在、其警中、甚之恐縮、其尤ノ件、然
比配當ノ得、

右由多配、

一、櫻城丸取負、對ノ貴方ニ於テ、訊内朝書ノ如
中ノノア、一、直由邊、台、下、又、ノ、暫、時、拜、借、

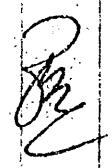
類、

二、鋸島燈台、元、看、守、人、ノ、由、聽、雨、ノ、衛、突、位、置、
其、他、考、察、資、料、證、文、等、關、心、書、類、

三、櫻城丸、能、夫、ノ、行、衛、利、明、ノ、訊、内、也、之、在、ト、ア、
之、關、心、書、類、

海軍

重平事件ハ事件発生以來相替時ハシ経過シ著
るハ然ラセ審判シ差違ハ申付ルモ如ク存存甚又
申上爾等ノ考可及至急ハ申付ルハ上出原配
ノ経過ヲ察シテ



1348

奉向奉子及

大正十一年八月廿一日

吳港在泊軍艦

艦長 原 道太郎

回信

本月二十日附千歲機密第五三號ヲ以テ
法中誠要者云々持誦作老記ノ如ク此

御意ナリト云

尚五回事件ニ事方ニ於テ可成速カニ審
判開廷ノ希望ニ有テ下調後下ノ六七月

大正十一年八月廿一日

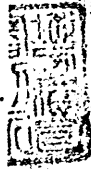
角谷 檢



第八



1349



中ノ開延致サレ予定ニ依テ以百在付了知本年
慶

回管事一取

一、櫻城丸船長、一等運轉士、對ルニ取調書及
 同船ノ横証調書等、本所記録中、有之
 少、下調終了上、右寫出送付中上ハ、以
 二、鍋島燈台ヨリ回管了ルル、参考資料ハ、
 衝突、本時、為道ヨリ、看守人、回管了ル
 下、下條右事、實ルル、依リ、為道ヨリ、看
 守人、轉任地ヲ照庸、結果、高根島船
 船通航、信所、在勤中、由、付、其方、向



更ニ照原登送駐在官名不白回着ノ橋
スハノ期待駐所ノ也

三、櫻城丸能夫ノ行衛捜索中ノ所汽船
日英丸ニ乗船中ノ模範ナルニ付同船ガ七
月三四日頃及神港ノ内ハ大港ノ精機ヲ以
テ同人ノ取調ニ平配ニ致呈出有 右下調
陸手ノ上ニ第二項ノ回答書及参考資料
料ト共ニ字作或陸送付ヤヒヘリ也

(陸)

(第八號)

二五



大正十一年七月十二日
阪神鐵道
一六〇〇號

大阪地方海員會社

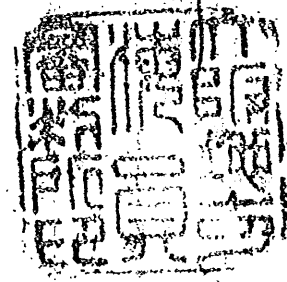
御中
御返水
御返水
御返水

御返水
御返水
御返水
御返水

御返水
御返水
御返水
御返水

御返水
御返水
御返水
御返水

御返水
御返水
御返水
御返水



(第八號)

大阪地方海員會社

1353

大阪遞信局用紙

聴取書

刑部

二六

大正十一年三月三日大阪地方海員審判所ニ於テ地方海員審判所理事官松下武晴ハ櫻城丸一等運轉士ニ對シテ汽船櫻城丸第二十四號潜水艦艦衝突事件ニ對シテ其由を立テ聴クニトテ九ノ如シ

氏名「曾我荒太」 年齢「五十一才」

族籍「士族」 職業「海員」

本籍地「長崎縣北高来郡森山村大字森山五之五戸」

現住所「大阪市西區本田通三丁目二九之七」

海技免状「種類番號」ニ種一等運轉士カニハ。号

本件發生當時「職名」一等運轉士

兼船主ニシテ大正十一年五月十九日

1355

判事

其船名ノ櫻城丸	番號ハカニ反ニ〇号	種類ハ汽船	船籍港ハ大阪市	積量ハ總噸數九〇一噸〇ト	航路店限ハ近海	所有者ハ住所長名ハ	同右船ノ書直割	答ニ直ニシテ以時向交代サリ即チ船長ノ私ニ直ナリ	同右件共強至前何時何所ニテ交代シタルヤ	看午前四時ニ遊見島ト波野即山若ク中間ノ所ナリ
---------	-----------	-------	---------	--------------	---------	-----------	---------	-------------------------	---------------------	------------------------

政共一八七號、十十二下四四號

8881

1356

問 斯ハ狹隘ノ場所ニテモ普通船長リ操縦セザル習慣ナ

リヤ

答 不直直ニ前記ノ如クニ直丁ニモ特ニ狹隘ノ場所ハ船

長カ操縦セザル習慣ナリ

問 此等ノ何故ニ船長カ操縦セザリシヤ

答 以時ニ交代シムル時先刻カク腹痛ニテ困ルカク暫ラシ休

息スルニ付何分宜敷クヤト云フ船橋ヲ去リテ故私

加自ラ操縦セザル故ナリ

問 何時何所ニテ船長カ出シタルヤ

答 事件発生直ニ出タリ船橋ニ来シテセシハ當時私共カ通

知ルニ船長カ出テ故機周後退ノ信号ノ音ニ驚キ船

長自ラ出テ来リシナリ

問 其許ノ浪江内海航行ノ経験アリヤ

二七

別紙

別紙

別紙

新嘉坡

右阪商船會社
 船長トシテ五艘、経験多ク相當ニ知リ居ニ續リテ
 同波節ニ華航時刻方位距離多ク後ノ針路
 書ク午前四時トシ一鐘半位ノ距離ニテ並航シテモ
 當時ノ方位ハ帆船ヲ替ハシムル為テ燈カニ知ラズル而
 辛クシヨリ針路ハ東ノ針ニシテ一此ニセリ但シ並航上
 前ニ此針路アリシニ並航ノ時ハ此針路ヲ下シヤク号
 今記憶ナシ何者當時帆船ヲ替ハシムル一アヤクナリ
 同其後何時針路ヲ替ヘシムルヤ
 右時系分半島ノ端ニ船口分一海里並ニテ東ノ
 此針路ニテ鍋島ニ至ル何ノ距離ニ並ニテ豫定ナリ也

阪其一八七號、十、十一、十四、昭和社所

1358

1358

答一 鐘評 並フ予定ナリシ

問 當時ノ天候風位風力潮流ノ方向其東力展望程度

答 晴天、暗ト但豫望ニ支障ナク 風ハ在ノ位 潮ハ在流ノ

末期 幾ノトナリト思フ

問 船長ハ月明アリ潮ハ約ニ海里ノ速ニ流ル

答 最早ノ船ノ最末期ニテ斯ル潮流ハ在レ二月

以テカクシク星位アリク亮方ナリキ

問 當時ノ在船ノ速カク

答 潮ノ在船ノ速カク

問 在船ノ航効如何

答 普通ノ如ク良好ナリ

問 在子島ト鍋島トノ間隔ハ幾何ナルト思フヤ

答 約半海里位ト思フ

偏南

1359

9

0061

割字

問 其新り此四ノ道ニ時ノ何側ニ寄リテ航行スルヤ
 答 斯ノ水道ハ右側ニ寄リテ航行シテス
 問 此時ハ
 答 此時ハ午ノ刻ニ在ル一也轉針セテ
 問 此針路ニ凡ク何所ニ向クヤ
 答 錫島燈臺下ニ至リ島ノ麓ニト中央ニ向クヨリ
 問 吾時此針路附近ニ航走船ナカリヤ
 答 此時也午ノ刻轉針セテトシテ利耶船首ニ方リ
 問 白帆ノ二燈ヲ認クタル外更ニ航走船ナシ
 問 其船ノ對平船ナリヤ
 答 然リ
 問 然ラハ轉針後ハ右ノ船申莫ク談船ヲ認クタルヤ
 答 船ハ右ノ船申莫ク替リト思フニ其瞬間同ニ兩船燈

阪其一八七號 十十二下四國郵船

1360

1360



大阪逓信局用紙

力見エル程ニテリ時々紅線交差隱現スル状態トナシテ向ニテ
其方位ニ依テ船首又ハ船首ヨリ極ク僅カク左方ナラカ
トモ思ハレシ所ナリ

向
其後ハ如何

答
其カヨク三ノ子島ノ尤モ其ニ志島ヲ約シ莫任復先時私

以テ短聲ヲ發シ船首ヲ少シク右轉シテ其時凡ソモ八波

信曲大々カト思ヒシモ他船ト方位リ更ニ替ラス共張リ也

船首ニ紅線交差隱現ニ接近シ来ル故更ニ短聲

ヲ吹鳴シテ激右轉ヲナシテ此時兩船ノ距離極ク

近直居リ也船首カ約ニ突後曲カリテ衝突シテ

向ニテ激右轉ニ踵テ也船ハ全速カ後退ニ掛シカ

間
衝突スル迄他船ノ紅線交差隱現ニ居タリ也

其
船カハトトホトト一ノ号令ヲ掛ケルト同時他船ノ紅燈

1361

制書字

制書字

制書字



俄の陽滅シテ火線燈ノミトナリ其供衝家ニあり
 問 他船の汽笛ナカリシヤ
 答 和の船後ニ一回一短聲ヲ吹キタルニ其節度他船ニ一短
 聲ヲ吹ク者入ノ結局ニ一回一短聲ヲ吹キタルノ
 問 其他ニ汽笛ヲ何レニ吹カリヤ
 答 船後ニ吹キ金匱力後取ノ時ニ短聲ヲ吹クニ他船
 汽笛ヲ吹カサリヤ
 問 初大級ノド船首ニ他船ヲ認メ初々半突ニ或躍テ四分
 三秒元如轉シ居ルニ物々其方位リ更ニ変更セザル様
 申意テ居ル所新ニ理由トシ他船リ飛行機ニアリ
 限リテ船ニ於テ船首ヲ変更セらルニ其瞬間
 方向力変更ニ必要ナリヤ
 答 強ヒテ変更セザリシトセバ
 或リ其許ノ轉針カ左ノ船中ニ一回ニ突込ル一七回ハ

限共一八七號 十、十二下開辨社局

別紙
別紙

別紙

別紙
別紙

ニアラズニ身軀カ回轉シタラズヤ

其回轉シタラズニ後リニ回目ハ七八度ト申スル私ノ臆測ニテ

或ク子ハヨリカククカニ知レタラスカ鬼島角本突出スル

回轉レタリ思ヒマス

肉然ク當時中船々首カ在ニ振レルトナリシヤ

各船ノ由来噴潮ノ舵握リカ良好ニテ決シテ尤

如ニ振レシ船々一トナシ

同善道ノ船船ノ噴潮ニハ舵カ握リテ中カ高知ナリ其許ノ

握リ居テト推定スルトシテ予ノ見タレアラサレナキ

カ

其船ノ善道ノ船ト横告ニ相違カアリシテ船首ハ「タラ

ヒ」如ク極大ナリ船尾ハ比較的細形ナリテ故

逆漸ニリ極大ナリ



大阪逓信局用紙

舟振りカ良ク善通ノ船ト反射ノ振アリ
 舟カ一程聲ヲ鳴ル他船之レニ應答云々カ何故ニカ
 轉ニ乘リシヨリ思フヤ
 其後別段 誤ニシモモカ知リ難カラカ 舟カトモトニ
 舟ヲ取違ハシテ、ア、イ、カト思ヒテ
 同 衝突ノ角度
 答 七五度 即チ舟カ他船ノ衝突ノ稍後方ニ一回
 同 衝突ノ角度
 其時其位置ヲ探ル暇ナカリシモ 該地莫クヨリ 葉揚ク時同
 ヲ参照シテ多分ニ子島ノ東方ト見 濁流ノ南端位ト思
 へり
 同 衝突シテ 錫島ノ方ニ向テ疾走シタル時刻

図共一八七號 十六、二十下四段見札的

6303

1364

其 来りし衝突ノ時刻即チ四時五十分ナリ

向 乗揚時刻

其 五時十分

同 乗揚多ク為テ全速力前進シ命シタル後ニ幾何ノ速力

アリト思フヤ

答 相当ニ浸水セズ多ク三四海里ノ速力アリト思フ

同 衝突當時鍋島燈台ノ何方位ニ見エ居タルヤ

答 能クハ覚エモシカ左舷向横後約二三度位ト思フ

同 衝突後ノ措置

答 船長ノ申立ト相違ナキニ依リ畧ス

如 諺圖タルニ相違ナキニ依リ申立テス

被取調人 曾我荒太

地方海軍審判所 理事官 松 下 武 晴

尚書事件ニ列記海龍報考考リ自ラ認カタルニシテ何
等相違ル所ナレト人追加ヲ申出タルニ依テ附記ス

右 藤 本 也

方 白 正 印

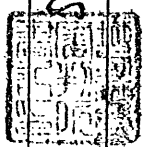
月 十 五

於 大 坂 地 方 海 軍 審 判 所



海 軍 審 判 所 書 記

坂 本 繁 吉



Vertical columns of handwritten text, likely a report or record, written in cursive style.

阪共一八七號 十六、一十四號製版

1366

1366

汽船櫻城丸一等運轉士聽取書

大正拾壹年四月廿拾八日大阪地方海員審判所ニ於テ地

方海員審判所理事官阿藤勲船郎ヨリ汽船櫻城

丸一等運轉士ニ對シ同船ト第ニ千四百番水艦衛兵ト

衛兵ニ付テ取調ヲナス事トテ如シ

同 姓名

答 曾我荒太

同 族稱 年令 職業 原籍 現任所 要存海技免

狀 種類 及番号 等 去三月三日當所ニ於テ取調ヲ

受ケタル際ト今日ト何等相違ニシテ出ハルヤカ

答 何等相違アリテモ

同 汽船櫻城丸ノ船主 船籍港 総噸教 航路定

限等 何等妻リナキヤ

胡沙字

一三三

何等妻更ノ點ヲアリケル

同 櫻城丸トナニ十四潜水艦ト塩瀬港戸三ツ子島附

近ニ於テ去二月十五日午前四時五十七分頃衝突

シタル際ニ其詳自ラ書面ニ任シ運航ヲ高キリ居ル

ハモノニ相違ナキ也

答 左様ナリ相違アリキ也

同 二月十五日午前四時三十分半島ノ何處ニ迄航シタル

答 防波堤ノ陸岸ト付ケ概テ該航ノ見當トシタリ

同 又ナリ斜路ヲ取敷此ニテレタル譯カ

答 左様ナリ

同 此斜路ゾ鍋島燈台ニ付テ船々首ヨリ左何處ニ

方リ凡ソ何程ノ見ユル也

答 此斜路ノ伏テ行ハルニ其距離離リ續クニ一鐘許

阪共一八七號 十一年二月四日

大阪逓信局用紙

ト大心ニ過中廿心故 極少船首直ノ左方ニ見ルコトナシ

7

何處ニ此針路ニ通行スルニ船定ナリシヤ

吾半島誌船後十ノ内航走ルニ大船塩穀島ノ東

端毫山鼻ニ流クヤ以テ該地奥ノ梅村ヲ轉リテシ

向然ニ當時ノ航海ニ於テ其以前ニ針路ヲ轉シテカ

午前四時四分毫山鼻ニ流ハントスルカニ於テ船

船首ニ方リ一船ノ紅燈ヲ認メテ其ノ一ノ上ト安全

ニ替合ルヤ船首ヲ左ニテ轉シテ其針路ハ

東ニ外ニ北シテ

向此紅燈ヲ示シテ汽船ト云フカ即チ第ニ十四潜水艦

ヲアツクカ

其ノ先リ過ヒタル 善通ノ汽船ヲアリマシム

別字

別字

別字

1111

1369

同 此汽船ト、何時頃何處ヨリテ如何ノ極ニ替リ合フ

タカ

同 轉針後向モヤクモ、船カ龜山鼻ヲ替ルヤ否ヤ位

ノ慶ニテ左舷對左舷ニテ替リ合ヒマシ

同 前向ノ取調ニテハ、之カ潜水艦ノ極ニ申シテ居タリテハ

カカ

答 否前向ノ於テハ此汽船ノコトニ就テハ何ニモ申上ケス

對午潜水艦ヲ初メテ認メタルハ矢張り午前何時也

ト云々頃前申上ケタ汽船ヲ替リスルハ、船首ノ的事

ト云々右轉也トシテ刹那ニ認メタルモノ替リマシ

同 然ラハ先行ノ汽船ト末ヲ替ルラスハ如何カ

同 丁度替リ合フト云々頃ニ替見シマシ

同 潜水艦如何ナル燈火ヲ如何ナル方位ニ如何ナル距

明治

明治

阪共一八七號 十、十二下國語報社印

0061

2

1370

1371

離 認

此針路の時は此の汽船の船首が左轉せし

上り此の汽船の船首が右轉せし

此の汽船の船首が左轉せし

此の汽船の船首が右轉せし

此の汽船の船首が左轉せし

此の汽船の船首が右轉せし

此の汽船の船首が左轉せし

此の汽船の船首が右轉せし

此の汽船の船首が左轉せし

此の汽船の船首が右轉せし

此の汽船の船首が左轉せし

此の汽船の船首が右轉せし

此の汽船の船首が左轉せし

別表

別表

別表

別表

別表

別表

8863

7

1371

別紙

認大タル根ノコトハアカリシヤ

答

シナトトリノボリマセン。殊ニ依ルル船首ヨリ
見れば左方ニ見入リ根ノコトハアリシヤモ知レマセン

問

潜水艦ノ方ヲ自認スル船首約半點ニ奔船ノ
白燈ニ個及紅燈ヲ認メタル根主張シ居ル故也
予ハ左舷船首ニ對テ潜水艦ノ白線ニ燈ヲ認メテ
居ルハ予ハナカ

答

否白紅燈ナカ

問

右舷ト潜水艦ノ紅對紅トナリタルコトリナカ

答

更ニソナトトリナカ

問

但レ潜水艦ノ派ナリ根城ノ前南ヲ移切ムコトナ

ク鍋島水道ノ左側ヲ通過スル目的ヲ艦首ヲ

右轉シタルヲ根城ノ後前ノ針路ヲ直航シ潜

阪共一八七號 十一月二十一日附録紙

水艦ノ前向ヲ横切ラントシテ船首ヲ左轉シ引継キ左回頭
ヲ續ケタル故潜水艦ニ左轉シタルニ櫻城丸カ潜水艦
ノ右舷船首ニ替リタル後俄カニ船首ヲ右轉シタル様
申立テ居ル如ク

答 夫レハ九ノ鐘ニテ五ノ程ノ虚構ト云テス也。船ヲハ左
轉コソシタル轉シタルコトハ先頭アリキ也。白雲早ニ子島
カサレ今危カクイ程ナリ故汽笛一經聲ヲ發シ對
平毛五ノ鐘ハタルノ矢張右舷ノ方ヘ進行シテ来ル

又ニ一經聲ヲ發シタル程ヲアリタル情ニテ對テカト
左舷對右舷ニテツクテトリテ也
其後ノ状況御突ノ模様
官制ニ陸ノ元居ニ通リカ

左舷ヲ示ス

別紙

一三五

1373

右讀圖也之ニ相違ナキ旨承諾シテニ記名調印セリ

右陳述人 曾我善心太

地籍調査事務所理事官 川崎勲次郎

右署名也

大正十一年七月廿一日

於大隈地籍調査事務所

地籍調査事務所書記 坂村泰吉



Vertical columns of faint handwritten text, likely a list of land parcels or survey details.

図共一八七號

十、十二下開図報社請

1374

1374

檢證調書

大正十一年五月三日大阪地方海員審判所受命審判官角谷撥一

八地方海員審判所書記貴島政憲ノ立會ニ依リ汽船櫻城丸第

三〇四潜水艦衝突事件ニ付大阪築港内築港区三碇泊セル汽船櫻

城丸ノ檢證ニ頭末始末

一 船橋ノ位置及其構造ノ大略

船橋、船橋中央ヨリ少シク前方ニ位シ兩舷ニ跨リ上甲

板上高十二尺餘処ニ在リテ前面及兩側面ハ孰レモ硝

子窓ノ設備ナリ而シテ高ハ三尺校張リニテ猶

其上ニ三尺ヤリテ其内ヨリ前方ヲ注視ニ支障ナリタルニテ

ナルモ便宜本件發生後之ヲ四吋條下ニシテ其依リ檢

ズルニ其痕跡ナリ

二 羅盤ノ位置

一三六



原基羅盤ハ本件發生當時ハ船橋前部ヨリ約五
 寸後方ニ操舵羅盤ハ其後方約四尺ノ処ニ裝置ニ在
 リタリ也其後原基羅盤ハ原位置ヨリ羅盤大丈後
 方ニ移シ操舵羅盤ハ之ヲ取除キタリト言フ事ナキニ依
 リ之ヲ檢スル其痕跡ヲ明瞭ニ存ス不之ヲ右原基
 羅盤ニ移シ各別製作所製作印アリ不之ヲ檢スル
 三操舵室ヲ構造大略
 一操舵室ヲ操舵羅盤ヲ扶クテ左右ニ約二尺五寸圍壁ヲ
 有シ且其前面及側面ニ硝子窓ノ設アリト言フ事
 ナキ本檢證當時ハ原基羅盤ハ位置變更ト同時
 取除キ改造サレリ其痕跡ヲ止ムルニ非ズ
 四操舵機
 一操舵機ハ汽用ニシテ機械ハ機関室圍壁ノ後方ニ在

版共一八七號 十六、二十下圖說見此圖

一三七

別志
別志
別志

別志

九橋燈増揚燈

並行
船燈
船橋
右舷
隔板
船首
尾線

船燈

汽笛
船橋
羅盤
直上
引手
吹鳴
不仕
夜置

七汽笛

船長室
船橋
直下
在

船長室
位置

スレス

船橋
前面
及
兩側面
展望
充分
三三
遮障
認

五船橋
展望

リテ
其間
ヲ
以テ
接続
シ
リ

大阪逓信局用紙

8581

1377

檣燈ハ前檣ニ吊上ル装置ナルモ後檣ニ何等増揚
燈ヲ點火スル装置ナシ而シテ本件發生當時ヨリ増揚
燈ヲ更カシタル事ト云フ
一〇機園傳令機所在

本機ハ羅盤ノ右方約四尺ノ処ニ位ス

而シテ本機ハ長瀬縣園方郎ハ本年五月二十日大阪

前船長ト交代シタルモ、ニシテ本船ハ石炭ヲ満載シ潮波

ノ影響音越キ水路ヲ離レシ金陳力約六哩ナリト云フ

此機證ハ前日午後零時五十分ニ始メ同時十五分終了

本書ハ即時同船内ニ於テ作成シタルニ依リ所屬署ノ印

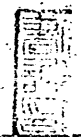
ヲ押捺スル事能ク

大阪地方海員審判所



阪共一八七號 十六、一、下國船務社編

三八



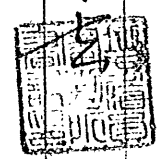
右謄本也

大正十年七月十一日

於大阪地方海員審判所



地方海員審判所書記坂本榮



地方海員審判所書記貴島政憲

受命審判官 角谷揆一

大阪逓信局用紙

0831

1379

讃鍋才五七号、面谷

大正十一年五月廿九日

鉛島燈其室看守長

航路標識看守

田中純

大阪地方海員審判所

受命審判官 角谷揆一殿

汽船橋城丸第三十四號潜水艦衝突事件

本件致審才九二四号(大正十一年五月廿九日)御照会ノ趣了承調査ノ

上迄記ノ通り及面谷候也

記

一、衝突場所ハ本臺上三面島附一線ヲ引キタル稍東偏

シタル方位ニシテ本航路ノ中央ヨリハ南方ニ當リ居リシト

云フ

二、燈臺ト上三面島トハ一線ヲ画セバ東ニ當リ

一三九

判事

三 兩船船ヨリ汽笛信号ヲ聞キタルモ其何レ船ガ前後ナルヤハ判

明セズ

四 難破船報告ハ改メテ報告セズ別紙寫ノ通り航路標識

管理部長ニ報告セリ

五 小官ハ本年三月十二日前任古川看守長ト交代シタル事

ニテ當時ノ状況及場所等ヲ知ル事不能殊ニ事件弁

生當時ノ当直者モ古川看守ナリ依テ發生當時ヨリ

引続キ在勤セル権藤看守ニ就キ慎重聴取シタルモ

ト本臺ノ記録ヲ綜合シテ回答スルモノナリ

以上

加藤也

大正十一年三月廿二日

船務部 航海部 審判所

判事



刺書

審才九七六號

回答書

汽船櫻島丸船長

河野 明太郎

大阪地方海員審判所

審判官 角谷 授一殿

西照會相成候件六月一日午後四時若松發六月三日午前
八時四十五分大阪着奈六島ヨリ男木島燈台ニ到ル航海
日誌寫別紙ノ通り以回答申上候也

大正十年六月十三日

大阪逓信局用紙

1385

Vertical columns of handwritten Japanese text in a traditional manuscript format. The text is arranged in approximately 12 columns, reading from right to left. A diagonal line is drawn across the page from the bottom left towards the top right.

阪共一八七號

十、二十、下、國、譯、社、納

2861

1386

航海日誌 (空)

大正十一年六月二日 午後

4-30. 六島 L.B. List 1 m. (針路高井神川 E/2 N)

5-25. 高見島 R.B.

5-50. 波節礁立標 R.B. List $\frac{1}{4}$ m. a/c. E $\frac{3}{4}$ N

6-18. 半島 R.B. List $\frac{1}{4}$ m. a/c. E/N

6-28. a/c. E $\frac{1}{4}$ N.

6-37. 錫島燈台 L.B. List $\frac{1}{4}$ m. a/c. E/N

7-20. 榎島 L.B. List $\frac{1}{2}$ m. a/c. E $\frac{3}{4}$ N

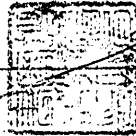
8-00. 天候曇天風位東和周海上輕波

8-20. 男木島燈台 R.B. List 1 m. a/c. E $\frac{3}{4}$ S

1381

1381

1000



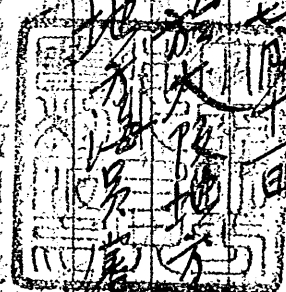
天候 風位 風力 気壓 大気 海水

8-00 C E 4 29-28 63. 58

吃水 F 17-00 A 19-01

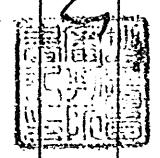
右 勝手本也

大正十一年七月



地方官署 海員審判所
地方官署 海員審判所
地方官署 海員審判所

坂村 榮吉



[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

阪共一八七號 十、十一、十二、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

1388

1388